

営農の継続・集落の存続 ～最上町黒沢地区～



交付金活用による持続可能な地域づくり
黒沢地区は、最上町の山間地に位置する農村集落である。高齢化や人口減少により、営農や地域活動の維持が課題となっている。その解決のため、多面的機能支払交付金や中山間地域等直接支払交付金を活用するとともに、地域の非農家も参画した組織による、様々な活動が行われている。

黒沢地区を守る

黒沢地区では、農業機械や農業用施設が壊れたり病気やケガをきっかけに農業をやめる人が増えている。そこで、中山間地域等直接支払交付金を活用し、コンバインや田植機などはリースして機械を共同利用することにより、機械が壊れても営農が継続できるようにした。また、昨年度からは、収穫などの中腰作業による腰痛問題を解決するために、アシストスーツを購入した。

地域活動の継続に向け、3つの組織が結成された。1つ目は「草刈り隊」。農家だけでは年々管理が大変になっている農道や水路の草刈りを地域全体で行っており、隊員40名のうち非農家が全体の3割を占める。2つ目は「雪かき隊」。草刈り隊員は冬になると、除雪ができない高齢者宅や公民館の雪かきを行い、地域の生活を支えている。3つ目は「おすそわけ隊」。穫れすぎたり規格外で出荷できなかった野菜や米をもつたないと思ったことから結成した。最上町と防災協定を結んでいる東京都板橋区の子ども食堂やフードパントリーへ、おすそわけの気持ちで毎月送付。消費者との交流が地域の生産意欲の向上につながっている。



アシストスーツを着用したアスパラの収穫
「腰への負担がかなり減り、中腰作業が楽になった！」

草刈り隊

畦畔の草刈りはその耕作者がするものという認識を取り除きたかったため「隊」とした。仲間意識により意見が出やすく活動の広がりがある。水路の泥上げも草刈り隊で行っている。



雪かき隊

高齢者宅や公民館の雪かきを行っている。単なる高齢者等の支援でなく、将来隊員たちも世話になり、助けられることを見え、今のうちから当たり前の活動と位置付けるようにしている。



おすそわけ隊

令和4年から活動。食品ロスを減らしつつ、都市と山間地の関係人口をつくりあげている。毎月、感謝のメッセージが届き、隊員はその感謝のメッセージに喜びを覚えるとともに、次の発送を楽しみにしている。



取組みの効果と今後

だれでも参加でき、だれでもできることを基本とした活動を通して、協働を継承できる体制が整えられてきました。活動を通して30～70歳の農家と非農家とのつながりができることにより、農業継承だけでなく、農村環境の継承と地域運営の継承にも寄与しています。今後の課題やするべきことを黒沢集落のみんなで共有しています。未永い事業展開を目指しています。



黒沢集落協定
書記担当 大場晃さん